

平成27年度 弘前大学 教養教育に関するFD 実施報告

平成28年2月16日に、弘前大学 教養教育に関するFDが開催されました。本年度は国立教育政策研究所から立石慎治 高等教育研究部研究員をお招きし、「学生の社会的・職業的自立のために弘前大学がなすべきこととは」をテーマとして基調講演をいただきました。その後、岩手大学教育推進機構 後藤厚子特任准教授から「地域課題をテーマとしたPBL 導入の取り組みについて」ご報告いただき、最後に、本学農学生命科学部 藤崎浩幸教授・COC 推進室西村君平助教から「地域学ゼミナールについて」の報告がありました。

(1) 基調講演について

基調講演は、①そもそもキャリア教育とは何か、②青森の初中等教育におけるキャリア教育の実態、③弘大生の社会的・職業的自立のために弘大ができることは何か、という3つのパートで構成されていました。

この3つのパートにおいて、もっとも強調されていたことは「キャリア教育は、教育活動全体を通じて体系的に行っていくものである」ということです。

我々は、「キャリア教育は、キャリア教育科目の担当者や就職支援室にまかせておけば良い」と考えがちです。このような考え方は、キャリア教育を、学士課程教育の一部に閉じ込める分離主義的な発想です。

しかし、そもそも大学教育の使命は、学生たちの幅広い教養や高度な専門性を育むことであり、そして教養や専門性は、学生が自らのキャリアを切り開くための最高のリソースとなるものです。この意味で、教養教育や専門教育こそがキャリア教育の本質であり、学士課程教育全てが、キャリア教育であると言っても過言ではありません。キャリア科目や就職支援室が運営するインターンシップ等の活動は、大学あるいはそれ以前の初中等教育を通して培ってきた知識や技能、態度のキャリア形成上の意義を再考する場であって、あくまでも、それを培うのは教養教育や専門教育、そして学生自身の普段の学びなのです。

立石先生が提示した統合主義的なキャリア教育観は、我々に「いま自分が行っているこの授業は、学生の将来にどのように繋がるのか」、絶えず問いなおすように求めるものです。そして、答えのヒントが、岩手大学の事例、そして本学の地域学ゼミナールの実践の中に「宝」として隠されているのではないかと、その示唆をもって、基調講演は幕を閉じました。

(2) 岩手大学の事例報告について

後藤先生からは、地域課題をテーマとしたPBLの取り組みを中心に、岩手大学COC事業「いわて協創人材育成+地元定着プロジェクト」についてご報告頂きました。

岩手大学は「地域のための大学」として、全学的に地域再生・活性化に取り組むべく、教育カリキュラムの改革を精力的に進めておられます。その一つの眼目として、全学部の初年次生を対象とした必修科目「震災復興に関する学修」があります。

「震災復興に関する学修」は、いわゆる基礎ゼミナールに位置づくものとして、平成27年度から本格実施されています。被災地の現状に直接触れ、それをきっかけとしてその後の主体的な学びを促していこうという科目です。地元を深く知ることで、「地元定着」を促す効果も期待されています。

他にも、教養教育、専門教育においてPBLに取り組むPBL科目が充実しつつあり、岩手大学の地域志向教育が「入口から出口まで」の一貫したものとして整備されつつあることが報告されました。後藤先生のご報告は、基調講演の主要なメッセージの一つである「教育活動全体を通じて体系的に行っていくキャリア教育」の具体であり、本学の教育改革の推進に大きな示唆を与えるものでした。

(3) 地域学ゼミナールの報告について

地域学ゼミナールは、初年次後期に開講される全学必修科目です。学部越境のクラス編成で、地域の問題を取り上げて、その解決策を思案する問題解決学習にチーム単位で取り組みます。自分とは専門の異なるメンバーとチームを組んで、自律的に学修を進めていく力の基礎を築くことが、地域学ゼミナールの狙いです。

本年度の試行では、学生たちが非常に積極的にグループワークに参加する様子が報告されています。地域学ゼミナールを通して学生たちに自律的な学修の基礎的なノウハウを涵養することは、十分可能であるとの見通しを得ることが出来ました。その一方で、学生の参加をどのように評価するのかといった課題も浮上しており、本格実施までにその解決が求められます。

また、試行では比較的少人数の学生に対して、複数の教員が指導する贅沢な指導体制が整っていましたが、本番では90人の学生に対して3人の教員が指導することになります。大規模な問題解決学習をマネジメントできるかどうか、不透明な部分も残されています。来年度の本格実施を通して、地域学ゼミナールの実践を更に向上させていく必要があります。

最後に、伊藤理事から「これからの教養教育改革について」と題して、講話をいただきました。講話を通して、今回のFDを通して示唆された「学生自身に考えさせる大学教育」の重要性が再確認されるとともに、その実現に向けてキャリア教育、地域志向の問題解決学習、地域学ゼミナールを更に充実させることが急務であるとの認識が共有されました。